

資料4

令和2年9月29日
地方創生・行政委員会
調査特別委員会
政策企画局
資料監室

資料2

令和2年9月30日
中山間地域・離島
振興特別委員会
地域振興部
暮らし推進課

若年層の社会移動の状況（報告）

目次

1. 若年層の社会移動の状況

- ・ 島根県の人口の社会移動 p2
- ・ 15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした転出超過数 p3
- ・ 同 年齢別 p4
- ・ 同 市町村別 p5
- ・ 同 地域別 p6
- ・ 同 直近の動き p7
- ・ まとめ p8

2. 関係者ヒアリング

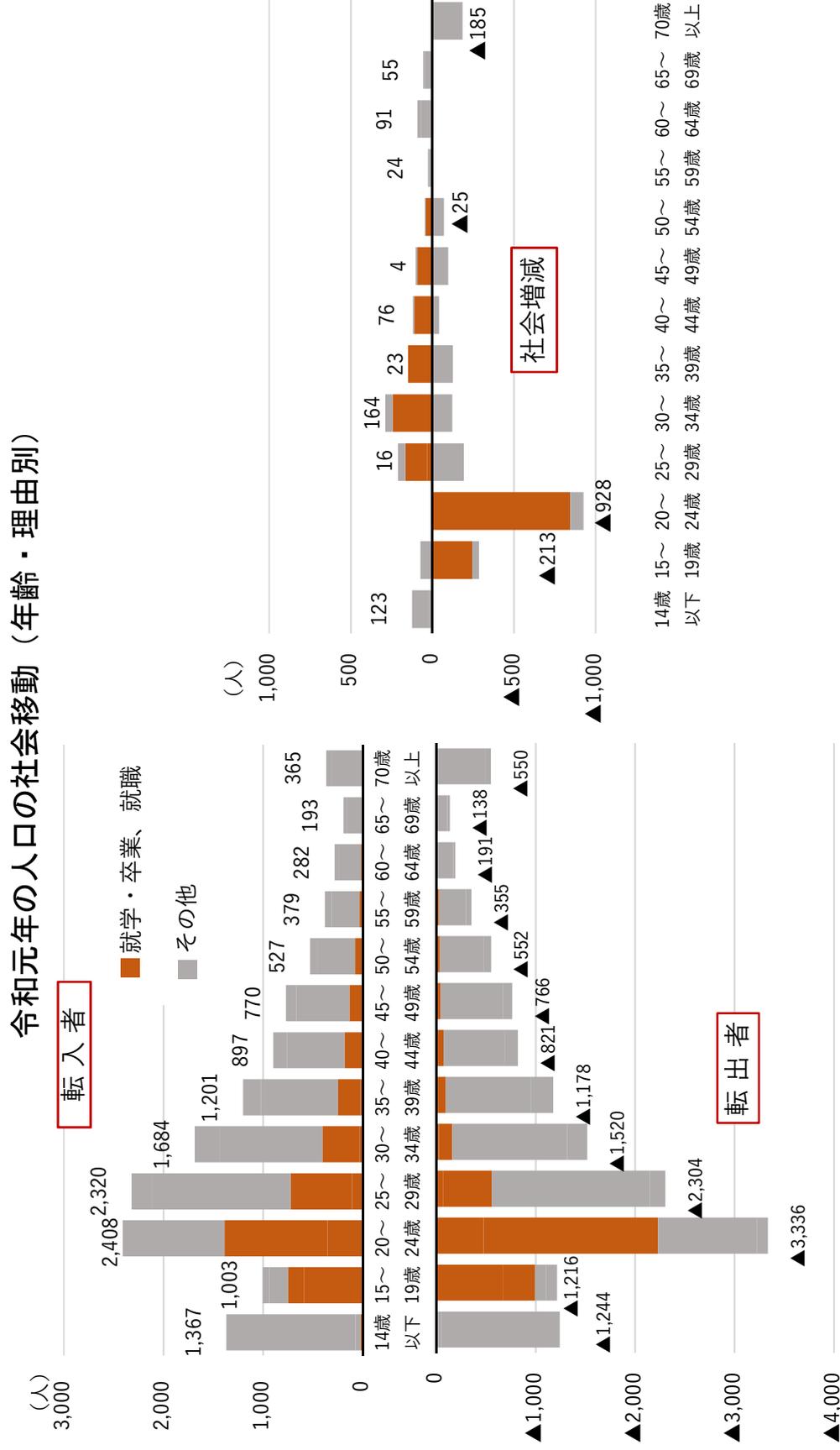
- ・ 市町村（6市） p9
- ・ 県内就職した若い女性（11名） p12
- ・ 県外就職した若い女性（26名） p14
- ・ まとめ p16

※ 参考資料

p17～

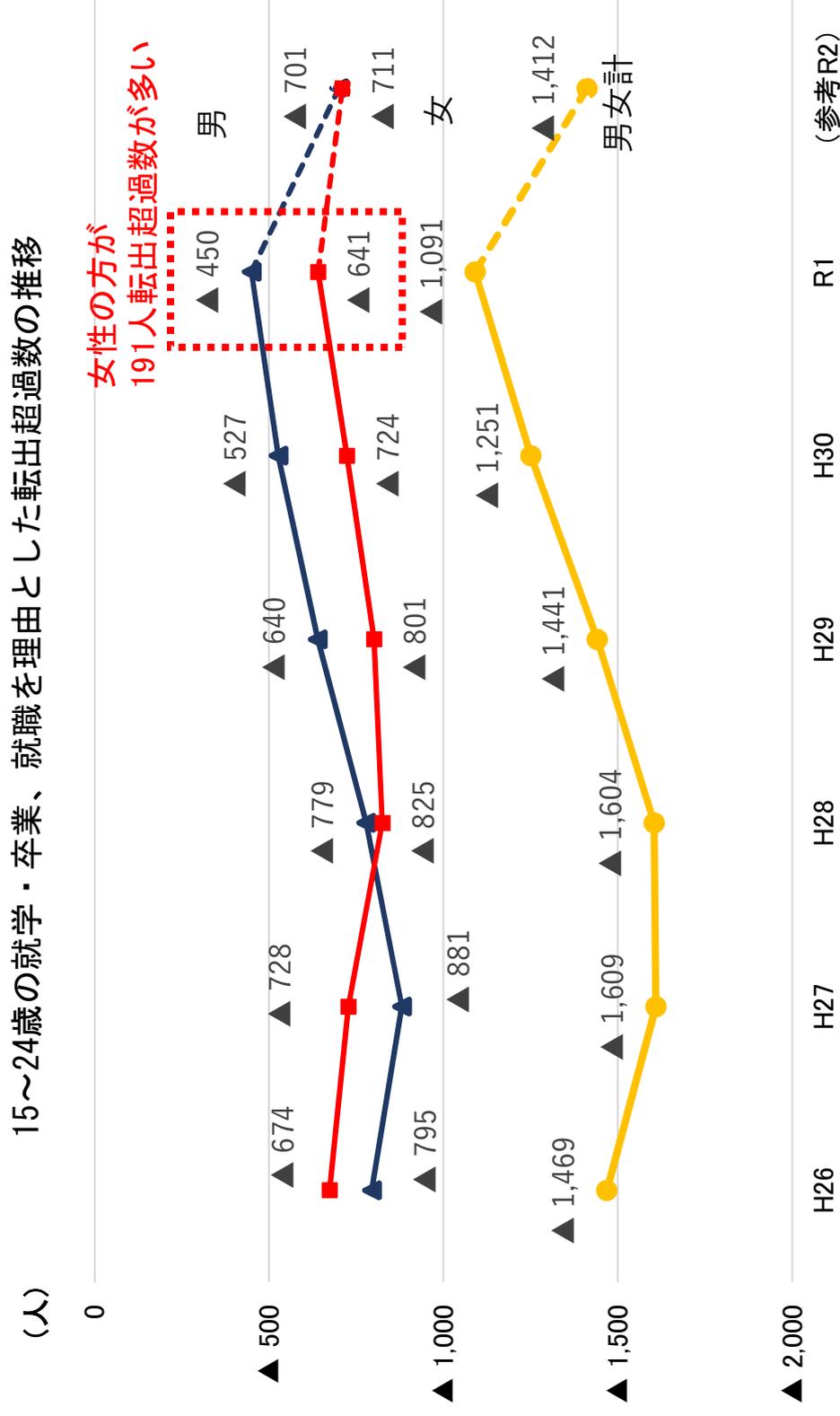
1. 若年層の社会移動の状況

- 島根県の社会移動の減は、15～24歳の若年層の就学・卒業、就職による転出が主な要因



1. 若年層の社会移動の状況（15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした移動）

- 15～24歳の若年層の就学・卒業、就職による転出超過数は、近年、回復しつつあるが、男性に比べて女性の方が回復の基調が弱い。



注) 令和2年は令和元年10月から令和2年7月までの暫定値

1. 若年層の社会移動の状況（15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした移動、年齢別）

- 年齢別では、高校卒業年齢(18歳、19歳)では男性の減少が多く、進学後就職年齢(20～22歳)では女性の減少が多い。

15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした転出入差の推移(年齢別)

	H26		H27		H28		H29		H30		R1		(参考)R2	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
15歳	▲ 795	▲ 674	▲ 881	▲ 728	▲ 779	▲ 825	▲ 640	▲ 801	▲ 527	▲ 724	▲ 450	▲ 641	▲ 701	▲ 711
16歳	4	8	13	5	19	19	22	10	38	26	62	8	46	16
17歳	11	9	11	8	24	8	25	6	62	13	79	19	52	20
18歳	1	▲ 2	▲ 2	▲ 1	13	▲ 4	▲ 3	6	▲ 4	0	1	▲ 3	3	▲ 3
19歳	▲ 161	▲ 108	▲ 130	▲ 105	▲ 118	▲ 120	▲ 133	▲ 123	▲ 140	▲ 125	▲ 127	▲ 99	▲ 130	▲ 86
20歳	▲ 159	▲ 109	▲ 175	▲ 108	▲ 168	▲ 153	▲ 123	▲ 124	▲ 132	▲ 107	▲ 93	▲ 93	▲ 138	▲ 112
21歳	▲ 87	▲ 66	▲ 94	▲ 80	▲ 69	▲ 95	▲ 56	▲ 91	▲ 53	▲ 55	▲ 41	▲ 67	▲ 81	▲ 69
22歳	▲ 117	▲ 112	▲ 104	▲ 145	▲ 109	▲ 122	▲ 76	▲ 137	▲ 50	▲ 115	▲ 97	▲ 114	▲ 85	▲ 137
23歳	▲ 108	▲ 119	▲ 137	▲ 131	▲ 132	▲ 184	▲ 106	▲ 185	▲ 126	▲ 185	▲ 131	▲ 155	▲ 161	▲ 159
24歳	▲ 130	▲ 142	▲ 197	▲ 140	▲ 169	▲ 152	▲ 153	▲ 153	▲ 136	▲ 160	▲ 82	▲ 128	▲ 166	▲ 174
25歳	▲ 49	▲ 33	▲ 66	▲ 31	▲ 70	▲ 22	▲ 37	▲ 10	14	▲ 16	▲ 21	▲ 9	▲ 41	▲ 7

18歳、19歳と20～22歳では男女の動きが異なる

注) 令和2年は令和元年10月から令和2年7月までの暫定値

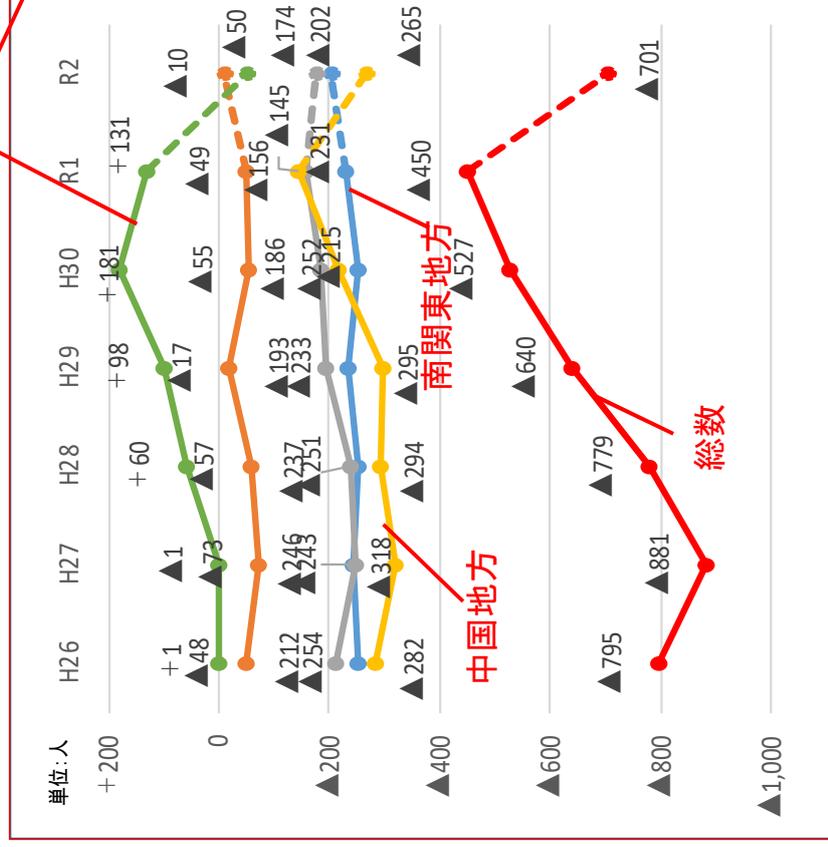
1. 若年層の社会移動の状況（15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした移動、地域別）

- 地域別では、男性は南関東（東京圏）、女性は西近畿（大阪圏）への転出超過が多い。
- 男女ともに、近年、中国地方への転出超過は減少傾向にある。

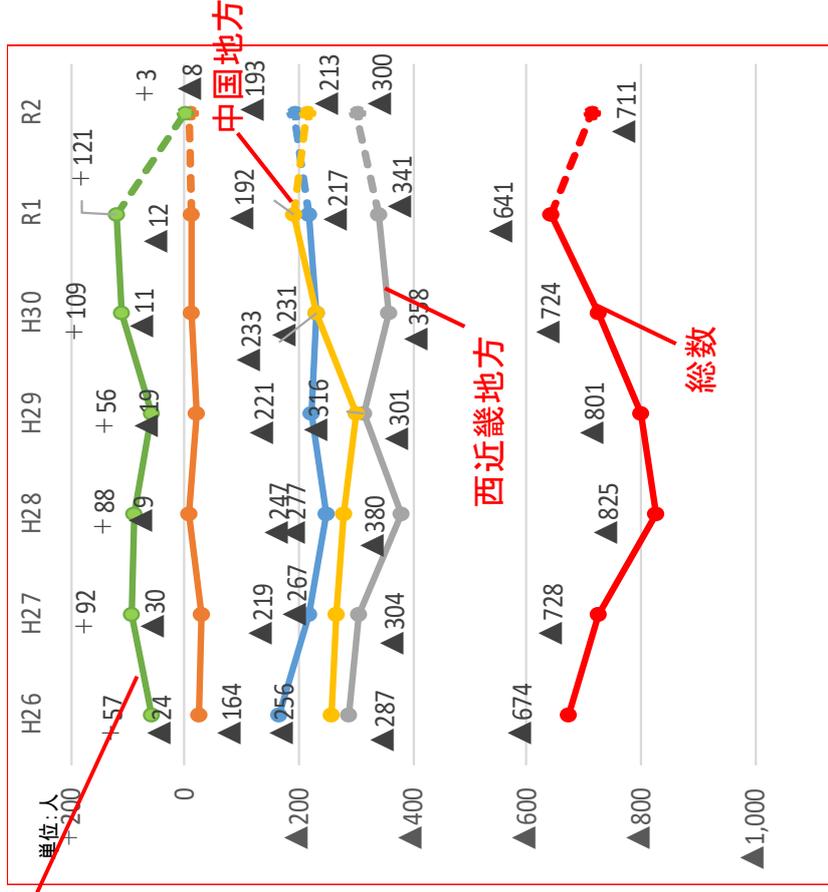
15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動の推移（地域別）

【男】

その他(国外からの転入を含む)



【女】

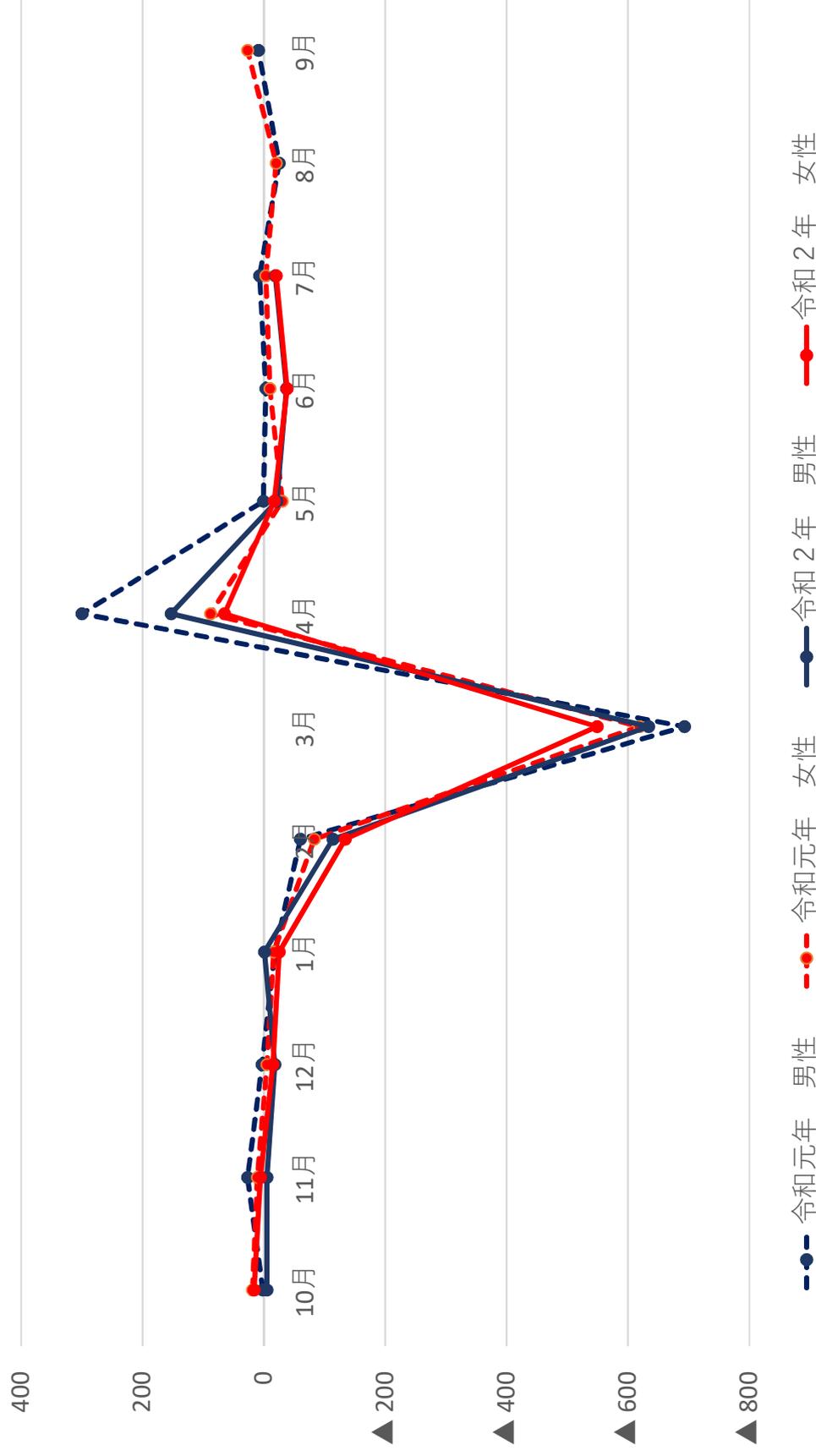


【地域区分】
 南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、神奈川県、三重県
 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、

1. 若年層の社会移動の状況（直近の動き）

- 令和2年3月、4月は、前年同月に比べて社会移動の動きがやや小さい。

15～24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動の推移（月別）



1. 若年層の社会移動の状況 まとめ

- 島根県人口移動調査(島根県統計調査課(15~24歳の就学・卒業、就職を理由とした社会移動))から、以下の傾向をみることができる。

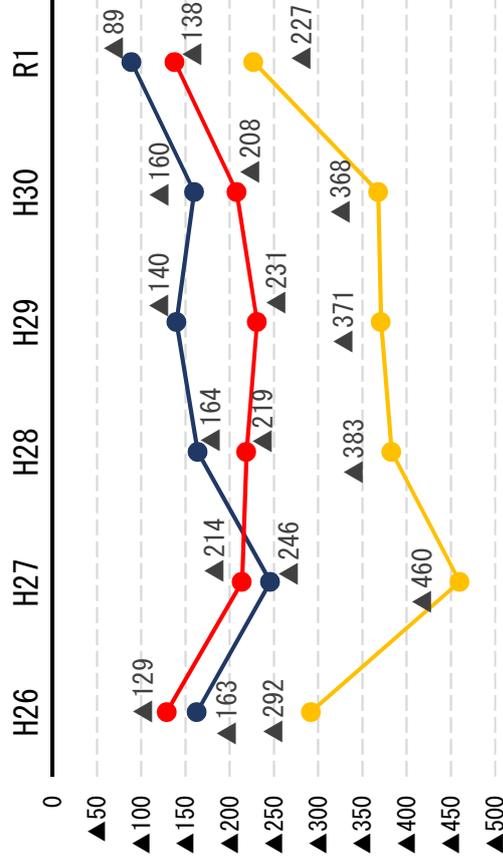
- ① 近年、県外への転出超過は女性の方が多く(p3)、17市町村で女性の転出超過となっており、うち、11市町村で男性より女性の転出超過が多い。(p5)
- ② 高校卒業年齢(18歳、19歳)では男性の減少が多く、就職年齢(20~22歳)では女性の減少が多い。(p4)
- ③ 県外転出先別では、女性は西近畿地方(京都府、大阪府、兵庫県)への転出が多く、男女とも中国地方への転出が減少傾向。(p6)

2. 関係者ヒアリング（市町村） その1

- 実態把握のため、若い女性の社会減が大きく、男性より女性が転出超過と
なっている6市へヒアリングを実施。

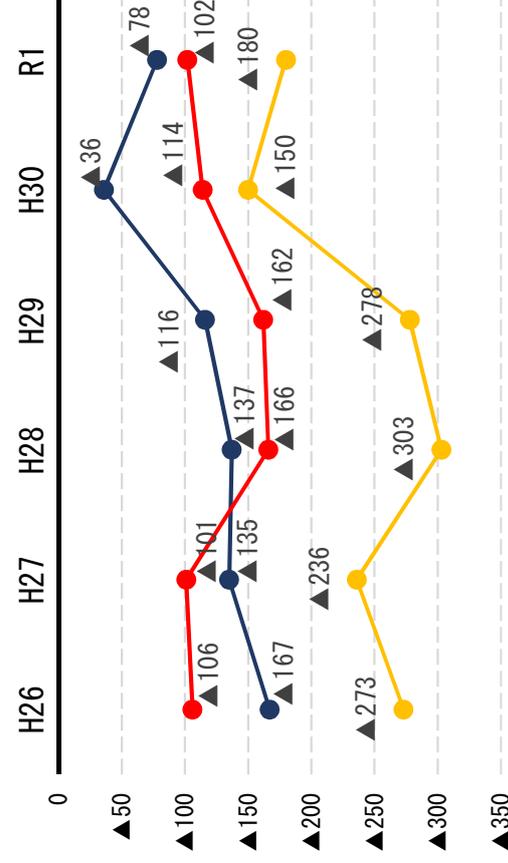
【松江市】

15～24歳の進学・就職を理由とした
社会移動の転出超過数の推移



【出雲市】

● 男性 ● 女性 ● 男女計



・特に対県外での転入出者数の総数は、女性より男性が多いが、転出超過数で見ると、女性が多くなっている。

・松江市の就業人口は、医療・福祉分野で女性の割合が高く、この業種は今後、大都市圏で需要が高まることが予想され、人材が流出することが懸念される。

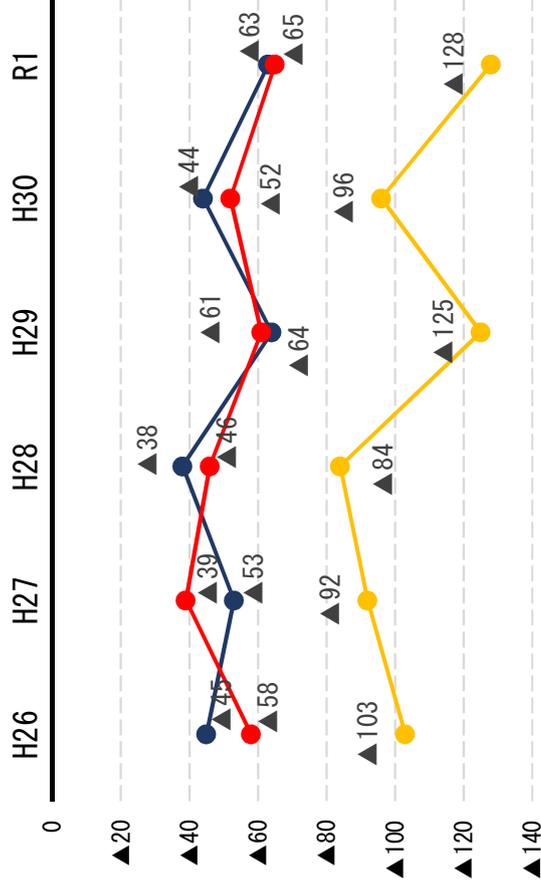
・女性の希望が多い事務職などでは、求人より求職が多く、ミスマッチが生じていると考える。

・男女別の差としては、製造業の好業績により男性の転入が増えていることが要因である印象。
・医療人材を育成する学校はあるが、待遇の良
い都市部に奪われている。

・IT業界で女性が活躍している例があるが、そのようなイメージが学生にないかもしれない。
・全年齢では外国人の転出入の影響は大きい
が、この年齢層だと、男女差への影響は大きく
ないと思われる。

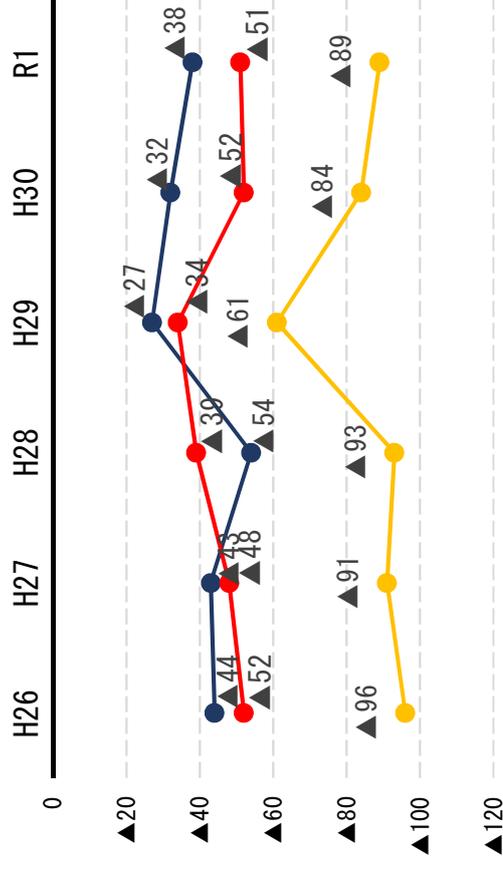
2. 関係者ヒアリング（市町村） その2

【雲南市】



- ・進学で市外、県外に出てしまい、そのまま市外、県外に就職してしまっている。
- ・一方、感覚的には、本市では女性本人の地元志向は強く、県外も広島など近場が多い印象（近くで親に頼れる環境が好まれている）。
- ・女性や若者が希望する事務系、IT系の職場が少なく、こうした企業の誘致に取り組んでいる。
- ・若い世代は、田舎の付き合いや、市内にアパートが少ないこと等から、松江市や出雲市に転出することもある。

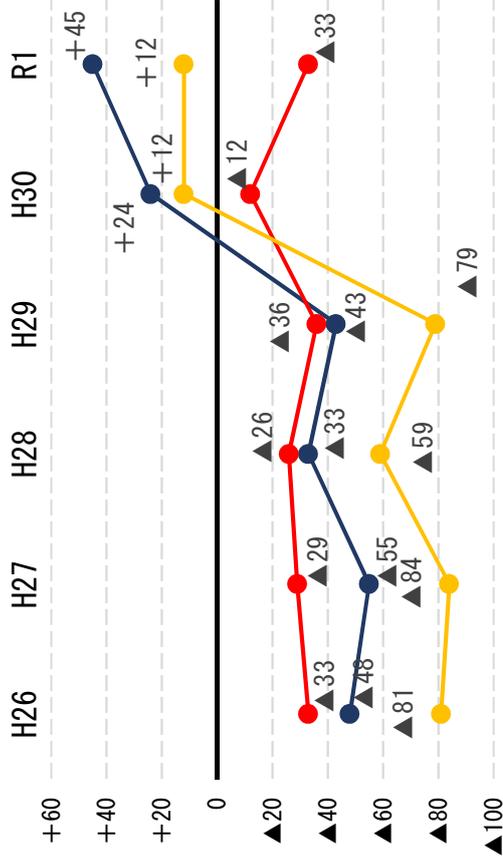
【大田市】



- ・H30に出生数が初めて200人台を切ったことを分析したところ、20～24歳の女性が特に少ない状況であることから、その対策を始めている。
- ・転出は広島方面が多く、大学生等に帰ってもらう対策が必要である。
- ・IT企業の誘致が好調で、新卒も含め若い女性の貴重な雇用の場となっている。
- ・UIターンの相談窓口には、セカンドライフを考えている方などが来るが、若い方の利用は少ない。

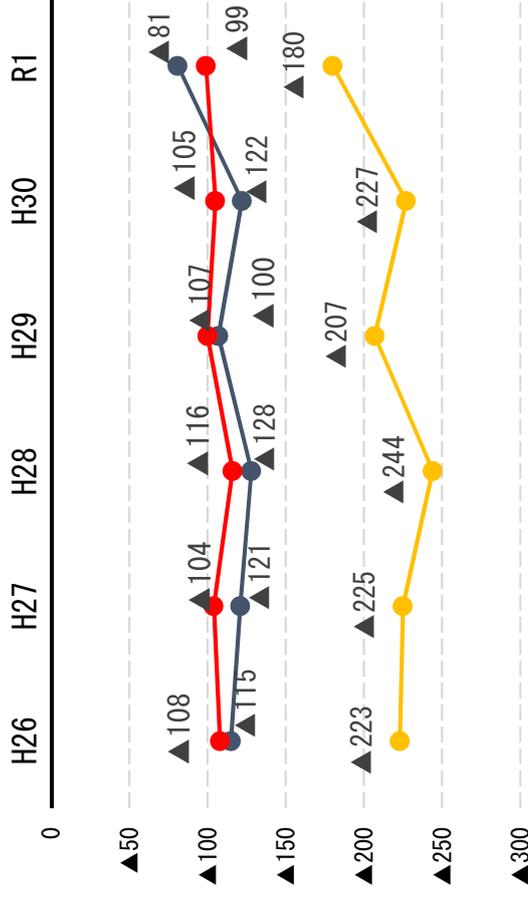
2. 関係者ヒアリング（市町村） その3

【江津市】



- ・男性については企業誘致等による雇用の増加により社会増。
- ・一方、女性は大卒総合職として働く場が少ないため、市外に出て行っている。
- ・仕事の選択肢が少ないのが、一番のネック。
- ・情報発信にあたり、「おしやれ」をアピールすることがポイントと考えている。
- ・ふるさと・キャリア教育等により、高卒の市内就職率が上昇傾向にある。

【益田市】



- ・現時点では、女性の流出が男性に比べて特に多いというまでの印象は持っていない。
- ・進学・就職による県外流出先としては、特に広島が多い。

2. 関係者ヒアリング（県内就職した若い女性）その1

● 実態調査として、県内就職した若い女性11名にインタビュー（令和2年6, 7月）

（11名の属性）

- ・ 県内高校→県外進学→県内就職 8名
- ・ 県外高校→県外進学→県内就職 1名
- ・ 県内高校→県内進学→県内就職 2名
- ・ 10名が4年制大学、1名が短期大学に進学

【高校時代】

- 県外進学を決めた理由としては、大学で学びたいことが県外にあったことや、島根県以外の土地・都会に出てみたかったことが多く挙げられた。また、その中には、親や高校の先輩から県外での話を聞いて、県外進学に惹かれた者もいた。
- 一方、家族の存在や島根に愛着があることを理由に、県外進学しても就職では県内に戻ろうと、高校時代に考えていた者もいた。
- 進学先の決定にあたっての親御さんの考えとしては、県内・県外どちらでも良いという親が多かったが、島根に戻ってきてほしいと伝える親や、県外に出た方が良いという考えの親もいた。また、学費面から県内進学が良いという親や、親から地元についてほしいという気持ちを感じた者もいた。

【大学時代】

- 県外進学をした者には、県外に出たことで島根の良さ（住みやすさ、のどか、満員電車がなない等）に気づくことができ、将来戻ろうと思った者もいた。また、実家や家族の近くが安心できて良いという者や、高校時代に県内の大人にお世話になった経験から県内に戻ろうと思った者もいた。
- 一方、県外就職を考えたが、就職活動を進める中で県外での生き方に不安を感じ、県内就職に目を向けるようになった者もいた。

2. 関係者ヒアリング（県内就職した若い女性）その2

【大学時代】

- 企業選びにあたっては、ワークライフバランスや福利厚生、結婚後もずっと働けるイメージがもてることを重視しているようであった。
- また、やりたい仕事があったことや、企業の採用担当の印象が良かったこと、パンフレットなどの雰囲気も見ているようであった。
- 同期がいることや、同じく県外進学していた友人も戻る予定だったことを挙げる者もいた。
- 就職先の決定にあたっての親御さんの考えとしては、県内・県外どちらでも良いという親の方が、県内に帰ってきてほしい・帰ってきてきたら助かるという親が多かった。

【女性の県内就職にあたって引っぱり張られるもの】

- 給料を挙げる者もいたが、それよりもワークライフバランスや福利厚生、安心感、女性にも働きやすいことを挙げる者も複数いた。
- また、おしゃやかなオフィスや企業名が大切と挙げる者や、惹かれるデザインのパンフレットを挙げる者もいた。
- 県内企業のイメージがないまま高校を卒業したため、県内企業の選択肢が自分の中になり、何を課題に挙げる者や、島根の暮らしの魅力のイメージが持てないことを挙げる者もいた。
- 県外就職した友人が、このまま都会で結婚・出産するか、又は親の近くに来た方が良いのか悩んでおり、就活時にライフプランを考える機会があればという者もいた。
- 親の意見にも左右されるという者もいた。

2. 関係者ヒアリング（県外就職した若い女性）その1

●実態調査として、県外企業に内定した女性26名に電話取材（令和2年3月）

（26名の属性）

大学等所在地	就職先所在地
首都圏	首都圏
関西圏	関西圏
中国地方	中国地方
その他	全国
島根県	島根県

（本社は県外だが島根勤務が確定）

【就職活動全般】

島根県での就職を考えた又は就職活動をした者は多い。（15名）

島根県での就職を視野に入れながらも、「ちよっとした」きっかけ（以下記載）で県外就職を決めていた。

また、就職活動を進める中で、自分の考えが明確になり、自分のやりたいこと、夢、スキルアップ等から、県外就職を選択した者もいた。

一方で、しまねのサイトや情報誌を一度二度見るだけで、島根県には良い企業がないと判断し、深く県内企業を検討しなかった者もいた。

【きっかけ】

・ 県内IT企業を不採用になったタイミングで、交通費を負担してくれる県外企業の情報が目に止まり、受験したところ合格した。

⇒ 自分に向いているIT企業を紹介してくれるなど、相談に乗ってってくれる人がいれば県内就職したかもしれない。

2. 関係者ヒアリング（県外就職した若い女性）その2

【きっかけ】

- ・ 進学先でのエリアの方が就職活動しやすかった。
 - ⇒ WEB面接や県外での採用活動を行ってくれる企業があれば、県内企業を検討したかもしれない。
- ・ 既存の企業ガイドブック等
 - ⇒ （特に女子）学生の関心が高まるような工夫があれば、県内企業を検討したかもしれない。

【最終的に県外就職を決めた理由】

- 企業に関すること
 - ・ 全国転勤や海外勤務を経験できる会社良かった。
 - ・ 給与水準や待遇面
 - ・ 自分のやりたいことが県内企業にはなかった。
- 場所に関すること
 - ・ 進学した土地が気に入り、その土地で働きたかった。
 - ・ 東京、大阪に出たかった
 - ・ 若いうちに都会で経験を積み修行したかった。
 - ・ 将来的に卒業した大学の大学院に進学することも見据えていた。
- その他
 - ・ 島根県で就職する場合は、教員や公務員を考えていたが、就職活動を通じて県外の民間企業への就職に心が傾いた。

2. 関係者ヒアリング まとめ

●関係者へのヒアリングから、以下の傾向をみることができる。

- ① 進路選択に関して、
本人の学びたいこと・やりたいこと、だけでなく、
親、先輩の意見も、一定の影響力がある。
- ② 就職に関して、
県内企業や暮らしの情報が届いているが、イメージが十分にで
きていない学生がいる。
「ちょっとした」きっかけで就職先を決めた「浮動層」が存在する。
- ③ 企業選択に関して、
給与だけでなく、ワークライフバランス、福利厚生等も重要。
女性に対しては、「おしゃれさ」などもポイントとなりうる。

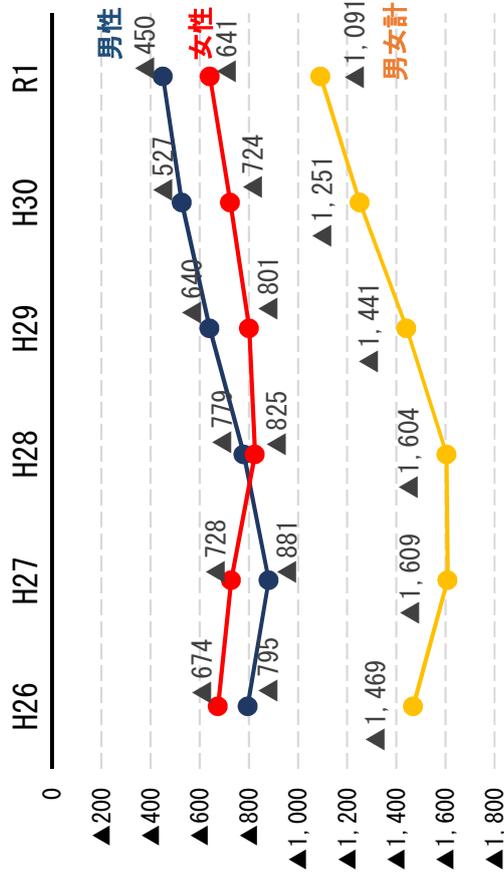
※本報告は、既存データ及び直近のヒアリング結果に基づく考察をまとめたもの。
若者の県内就職を促進するための取組(p28)の実施と並行して、今後も分析等
をさらに進め、取組の改善につなげていく。

參考資料

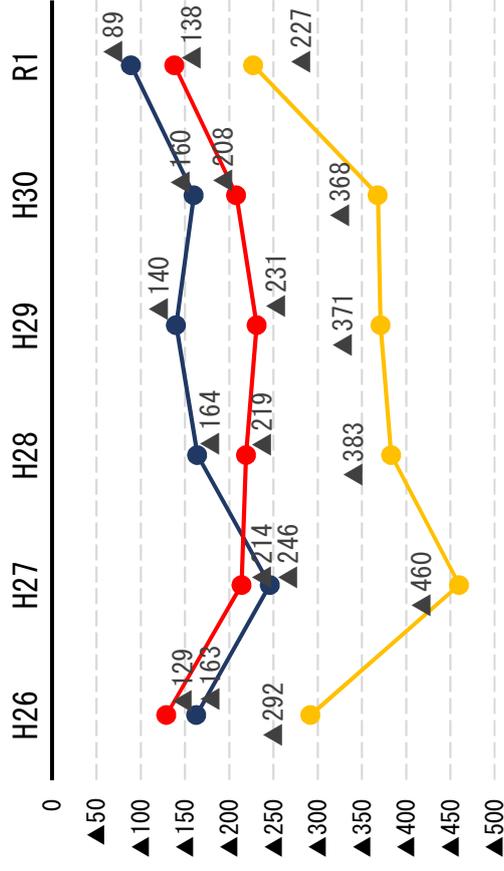
《参考》市町村別の15～24歳の就学・卒業を理由とした転出超過数

市町村別の推移（その1）

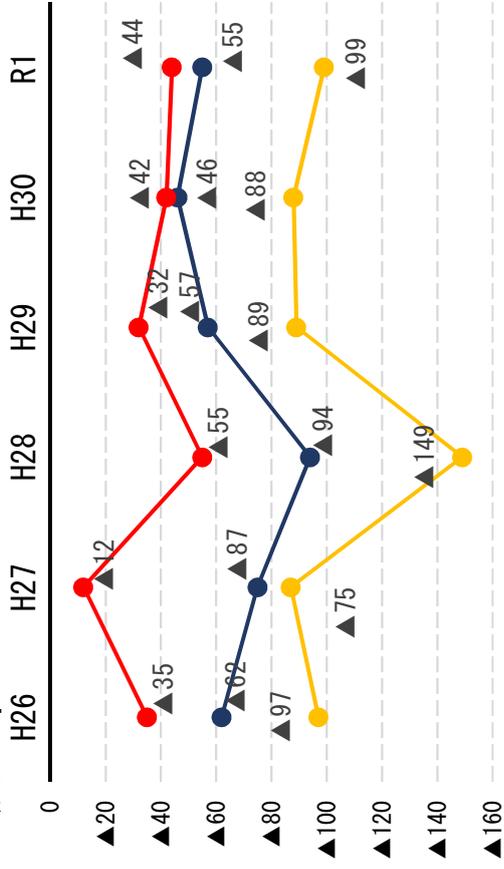
島根県



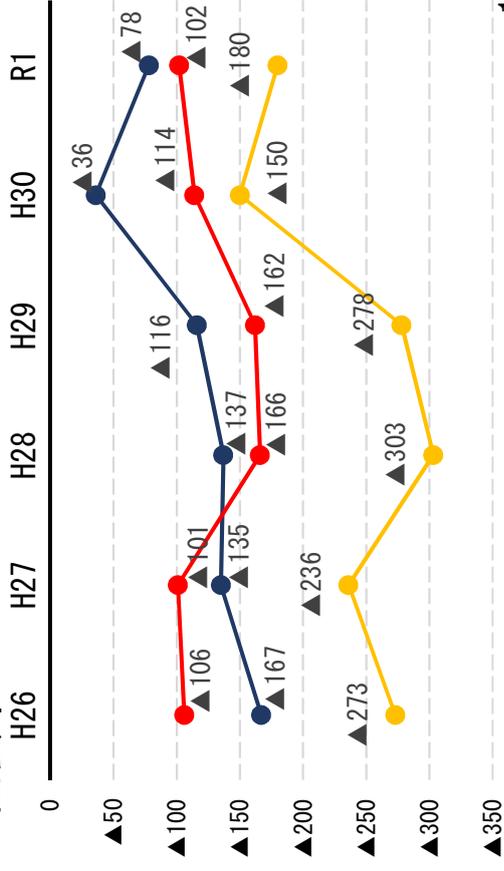
松江市



浜田市



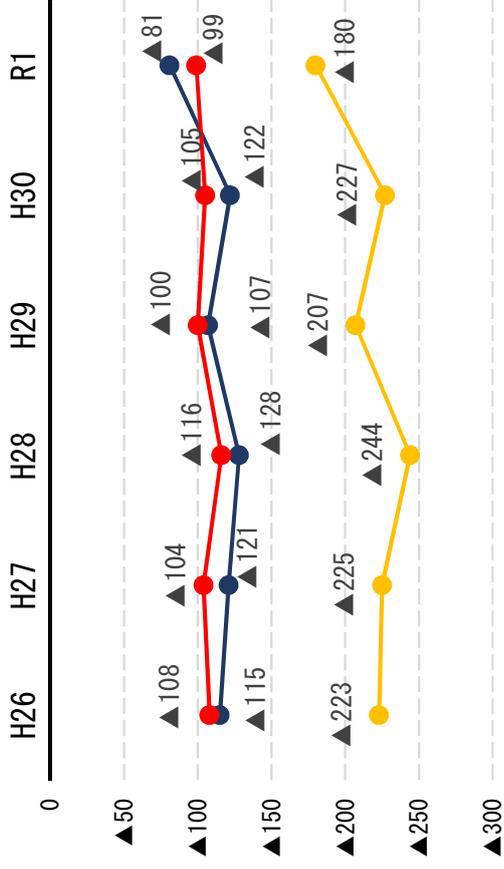
出雲市



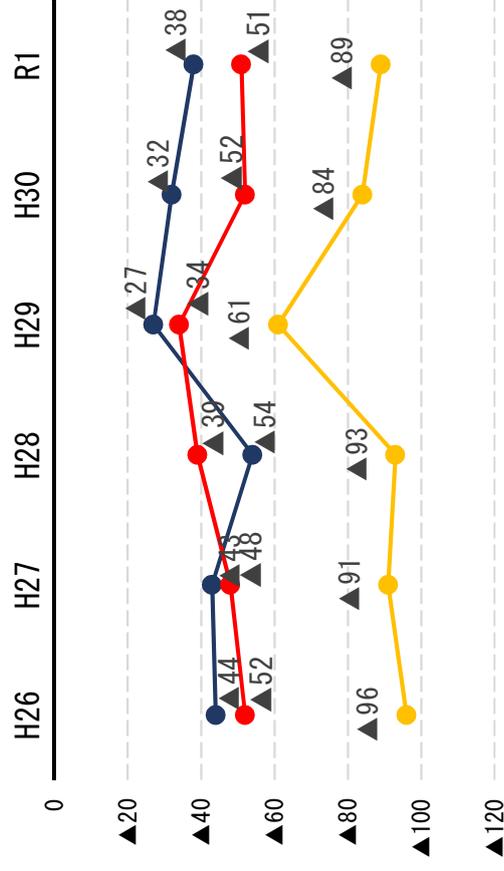
《参考》市町村別の15～24歳の就学・卒業を理由とした転出超過数

市町村別の推移（その2）

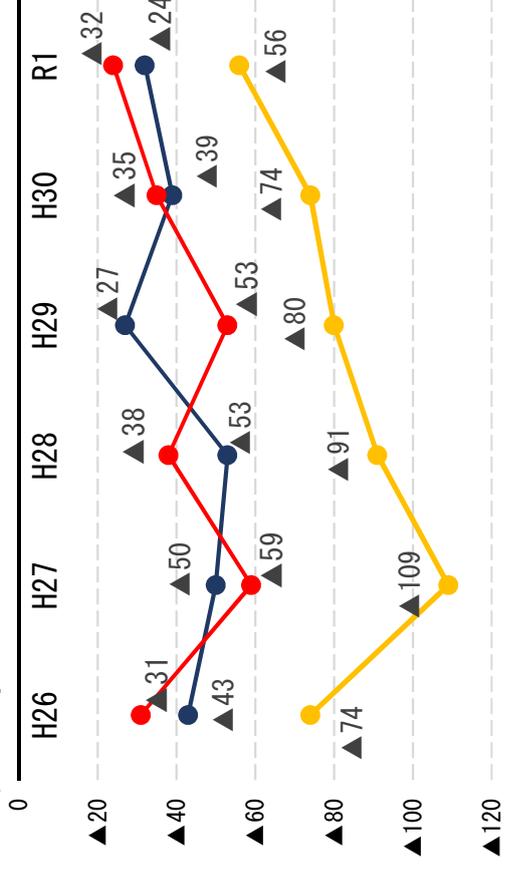
益田市



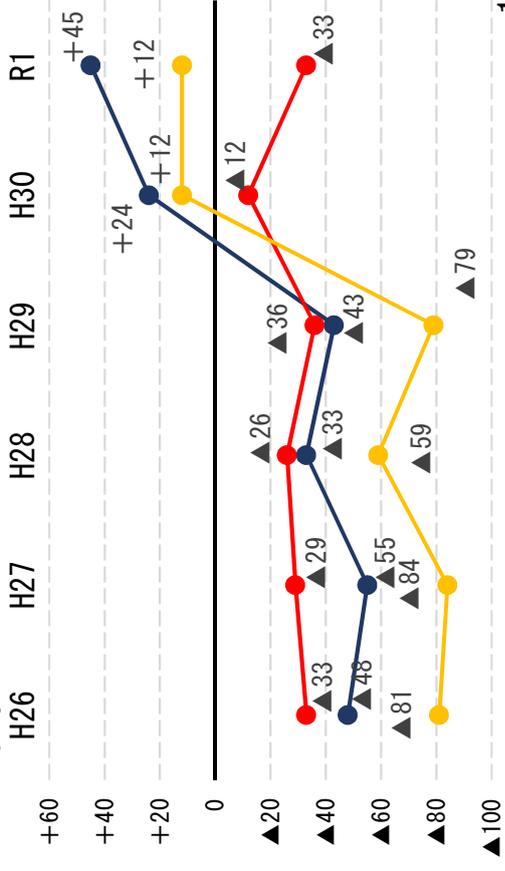
大田市



安来市



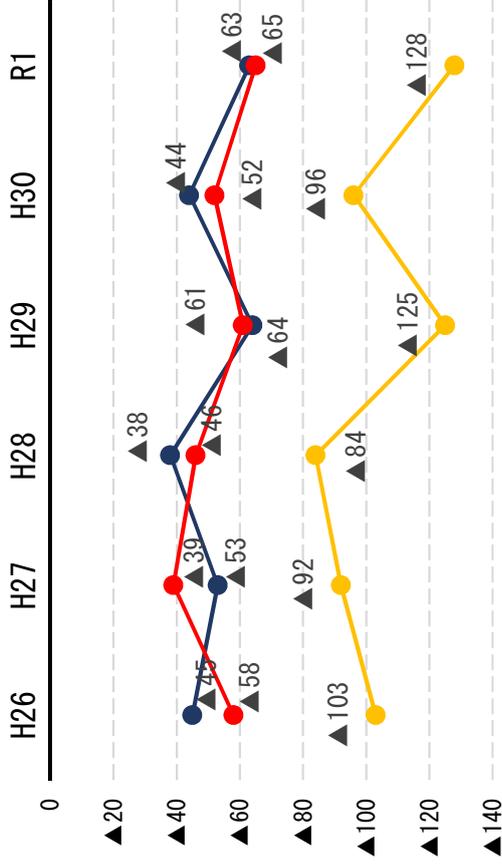
江津市



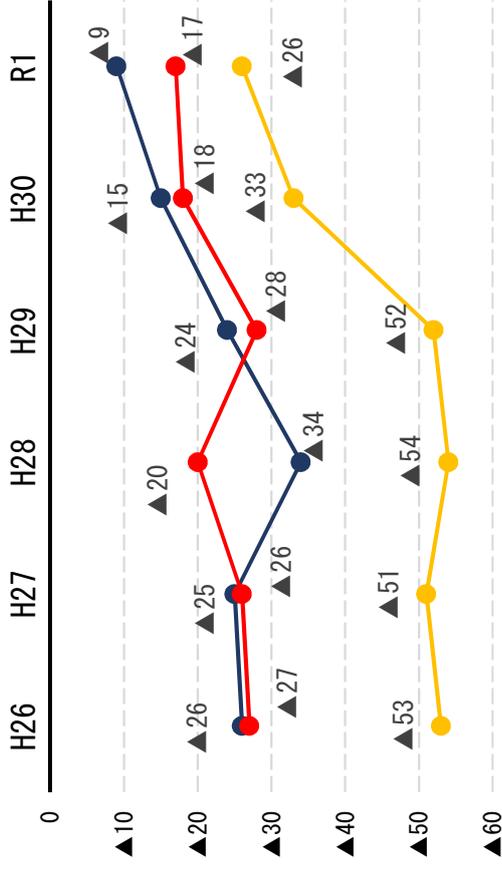
《参考》市町村別の15～24歳の就学・卒業を理由とした転出超過数

市町村別の推移（その3）

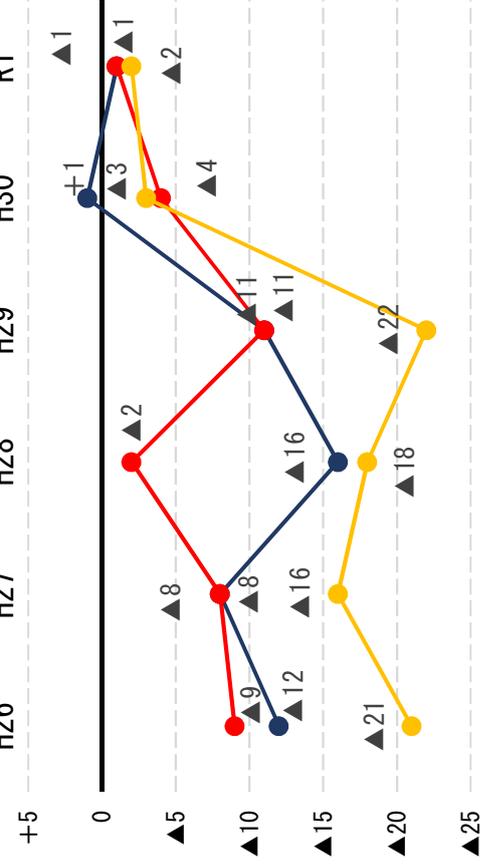
雲南市



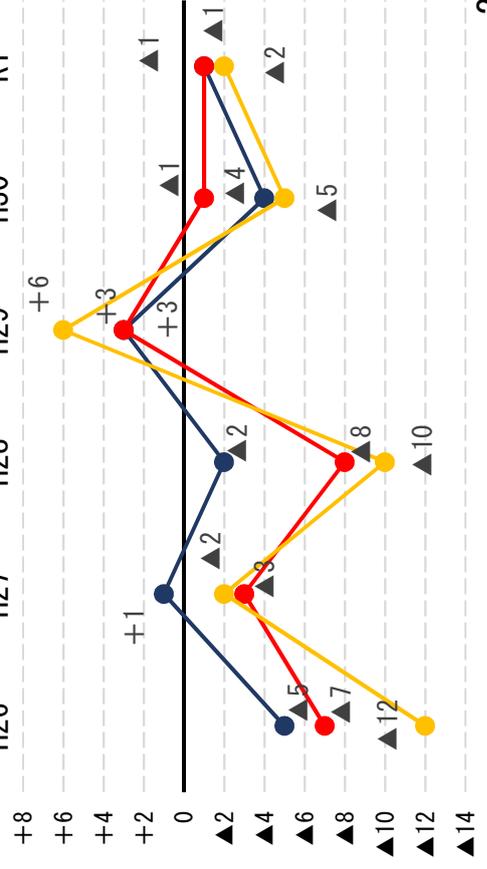
奥出雲町



飯南町



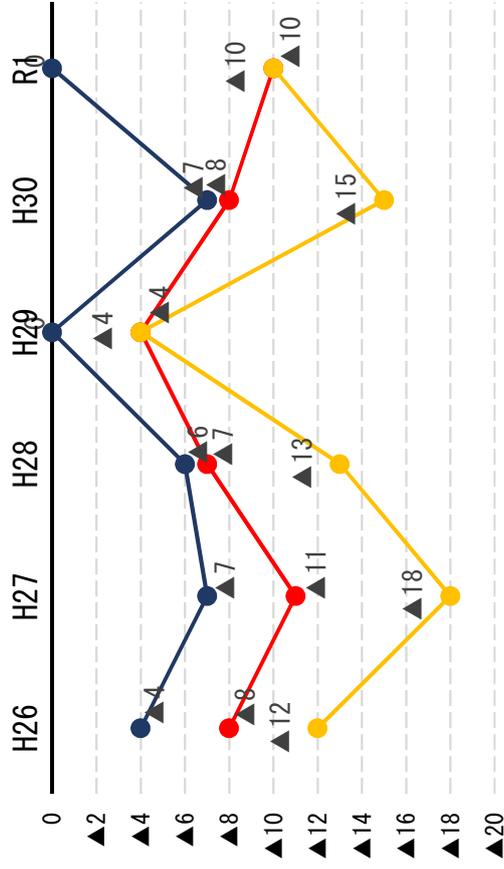
川本町



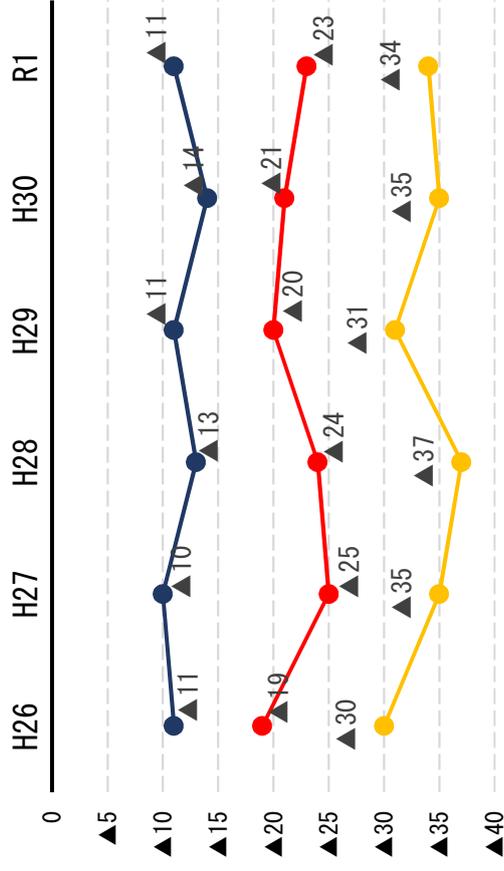
《参考》市町村別の15～24歳の就学・卒業を理由とした転出超過数

市町村別の推移（その4）

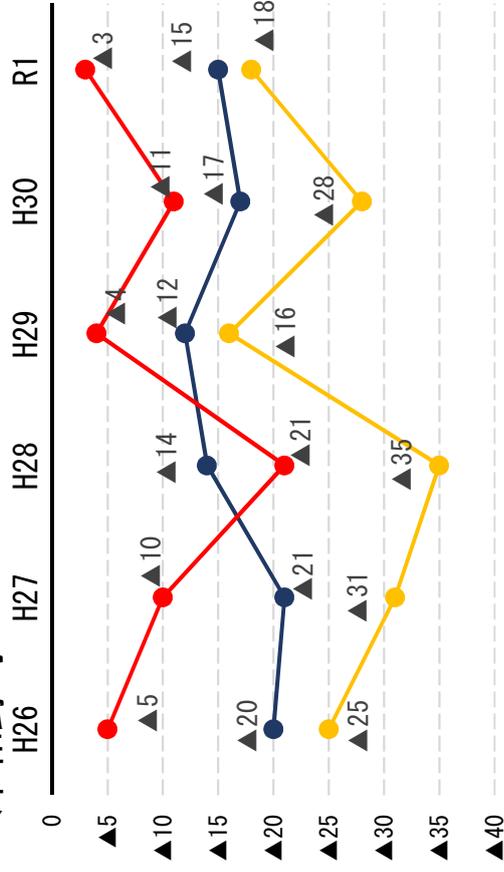
美郷町



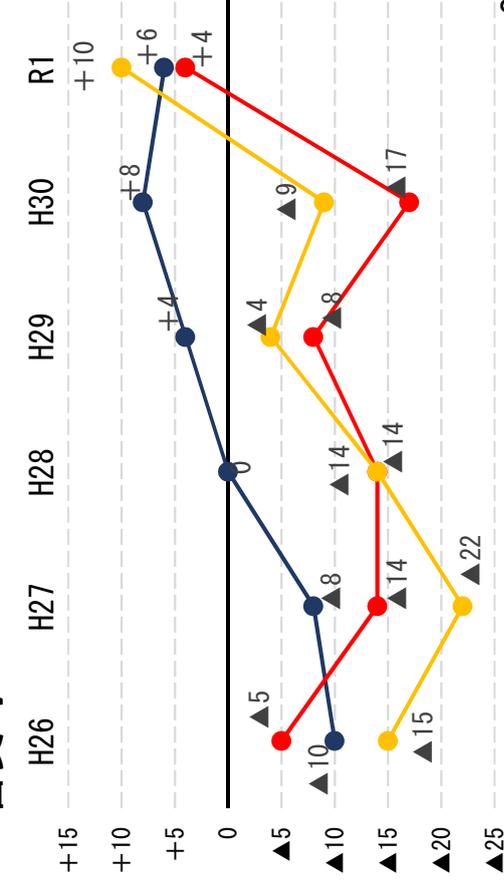
邑南町



津和野町



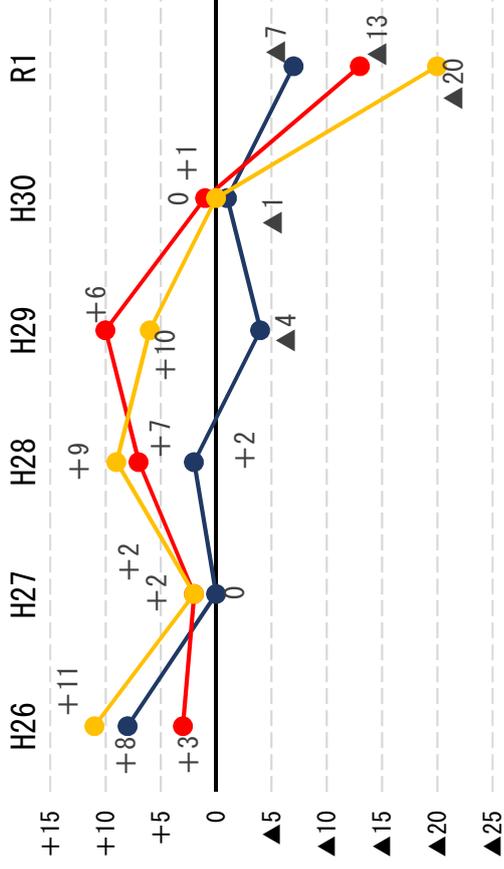
吉賀町



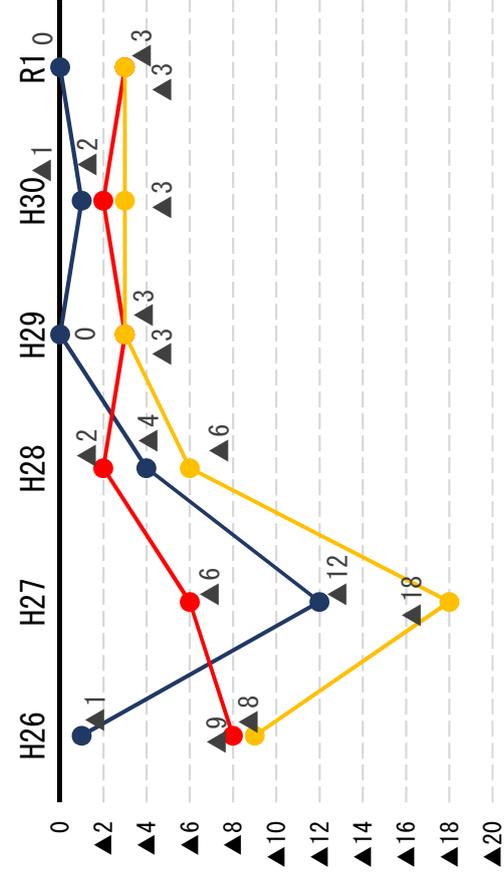
《参考》市町村別の15～24歳の就学・卒業を理由とした転出超過数

市町村別の推移（その5）

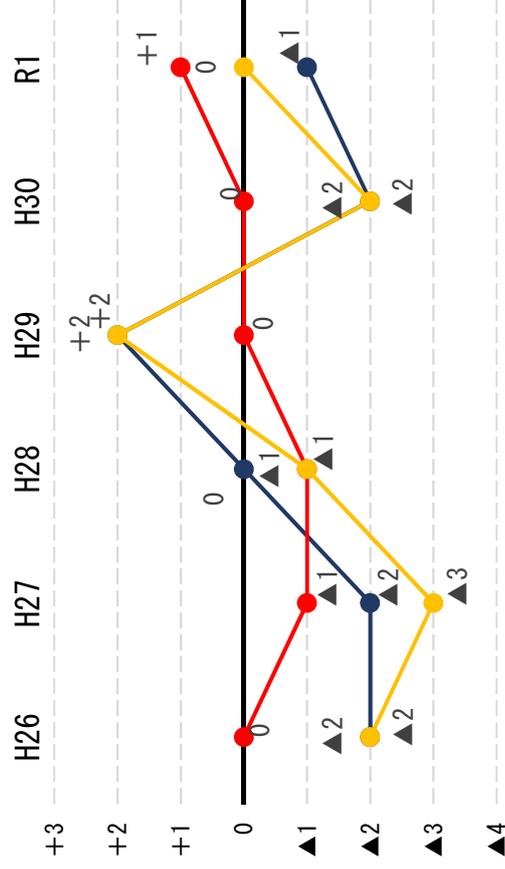
海士町



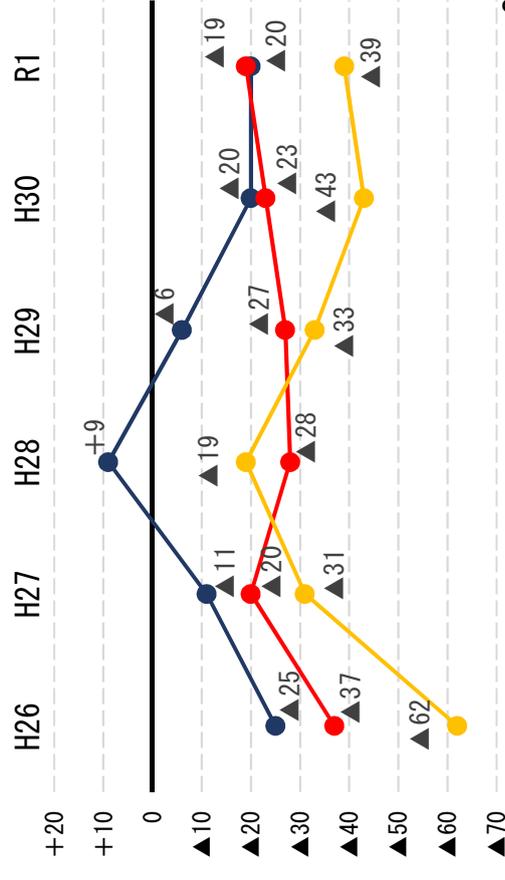
西ノ島町



知夫村



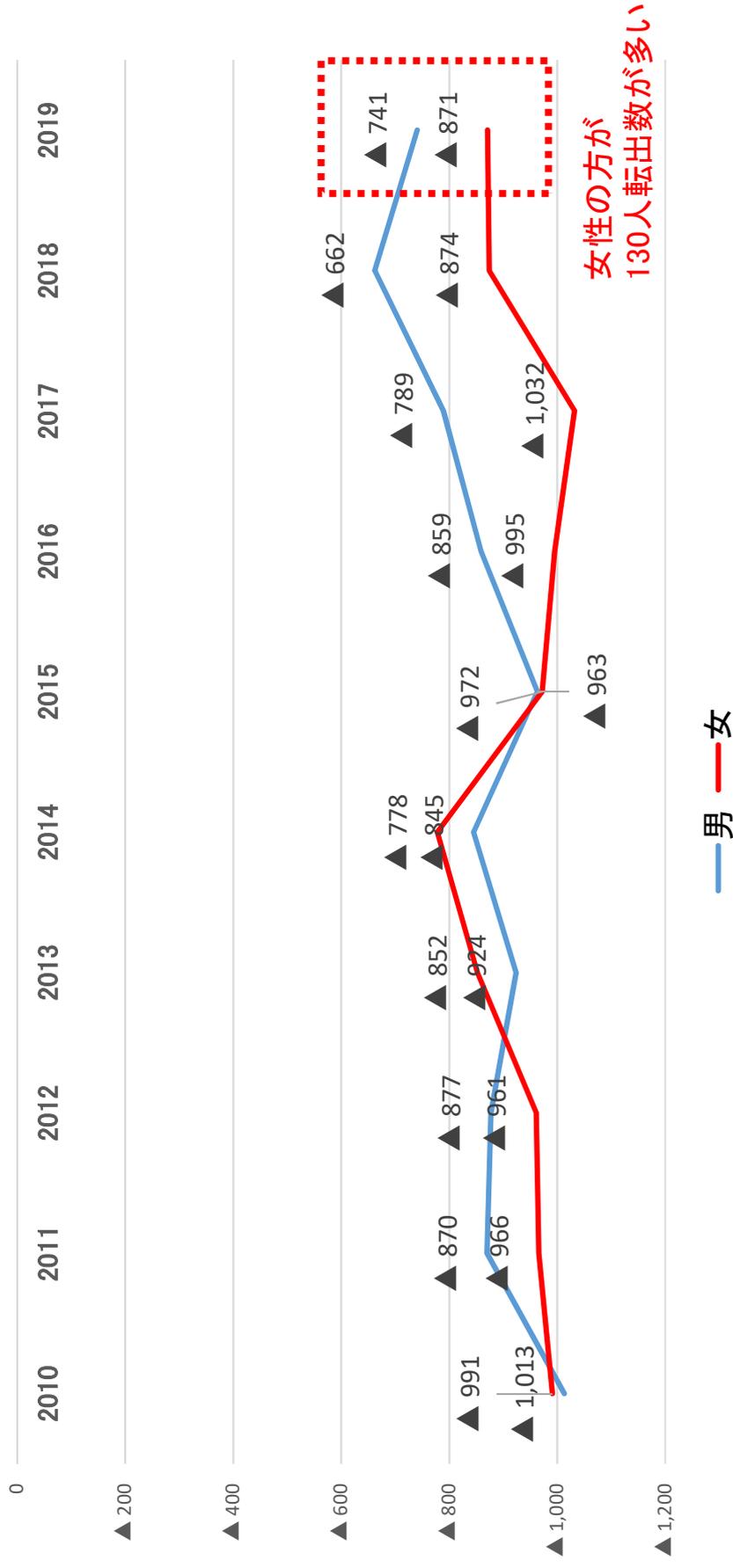
隠岐の島町



《参考》 島根県15～24歳人口の社会移動（日本人のみ）

- 日本人のみの転出超過数の推移についても、近年、男性よりも女性の方が多い傾向にある。

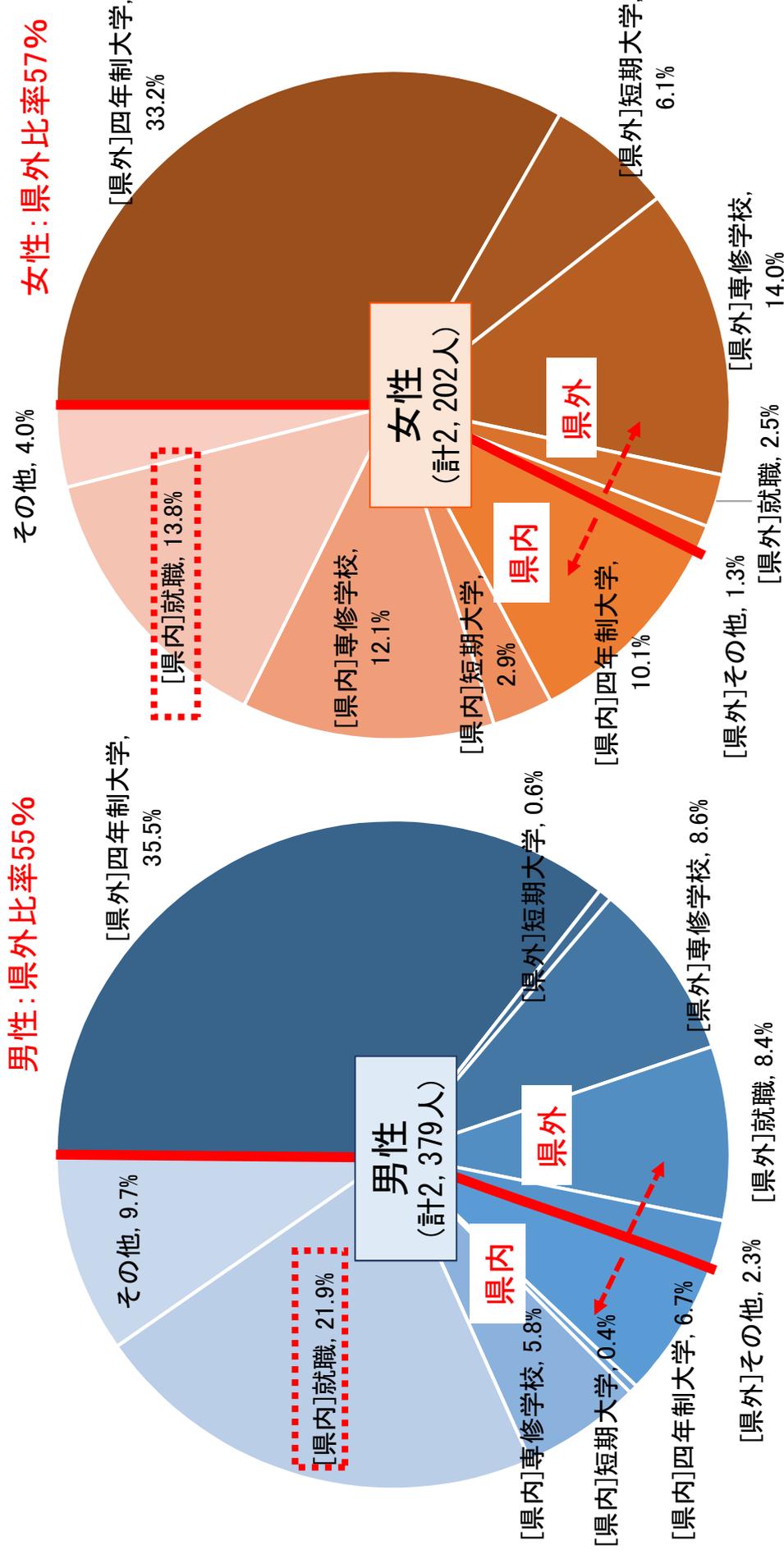
男女別転出超過数の推移、日本人、15～24歳



出典：「住民基本台帳人口移動報告
（日本人移動者）」（総務省）

《参考》 島根県の県立高校卒業生の進路状況（令和2年3月卒業生）

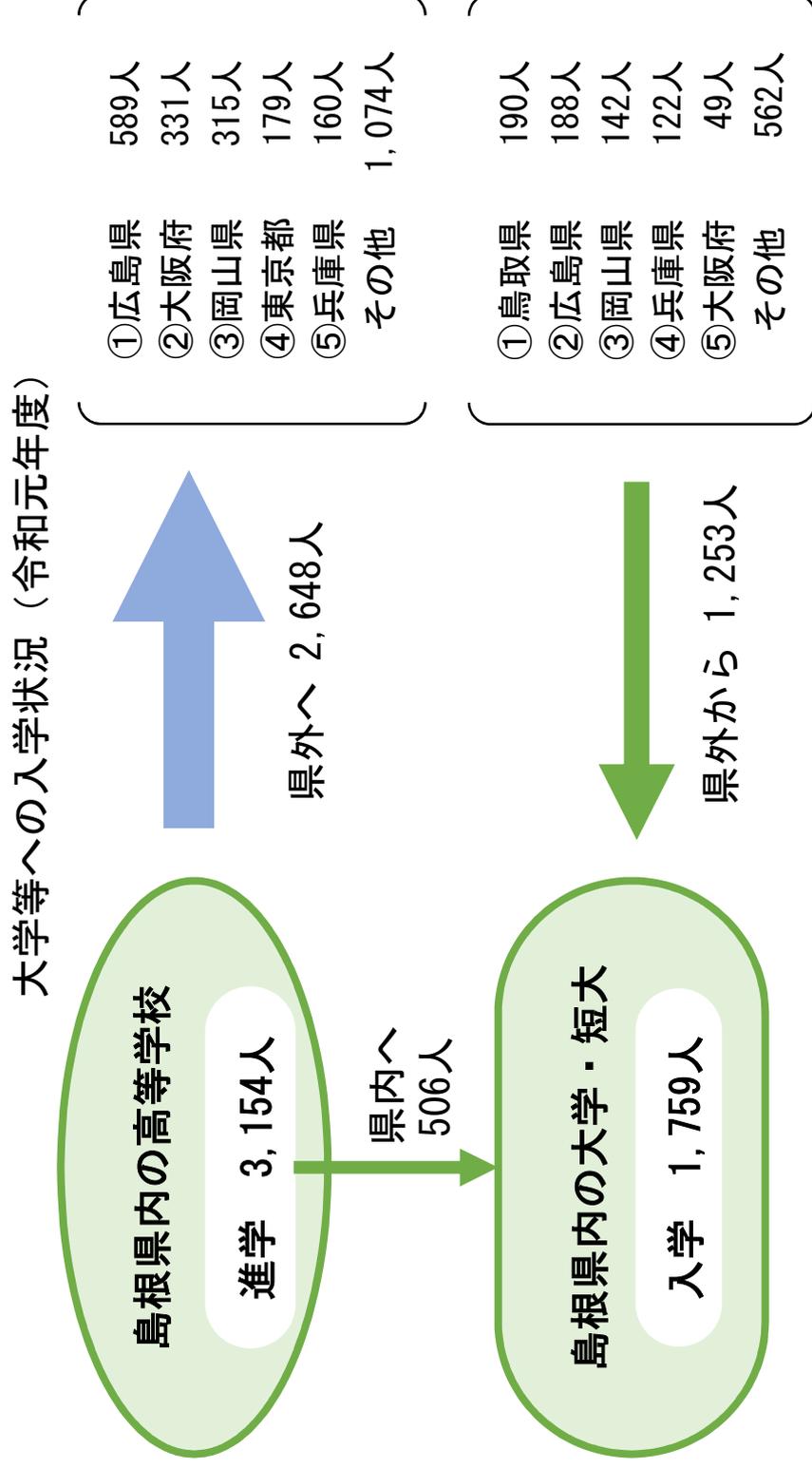
- 県立高校卒業生の進路における県内県外の比率について男女で大きな差はない。
- 県内外含め、男性の方が就職する割合が多い。



資料：「令和元年度 卒業生進路状況調査」結果から

《参考》 島根県内高校生の大学、短期大学への進学先の状況

- 県内高校からの進学者約3,200人のうち、約85%が県外大学等へ進学
- 県内大学等への進学者約1,800人のうち、約70%が県外高校からの進学

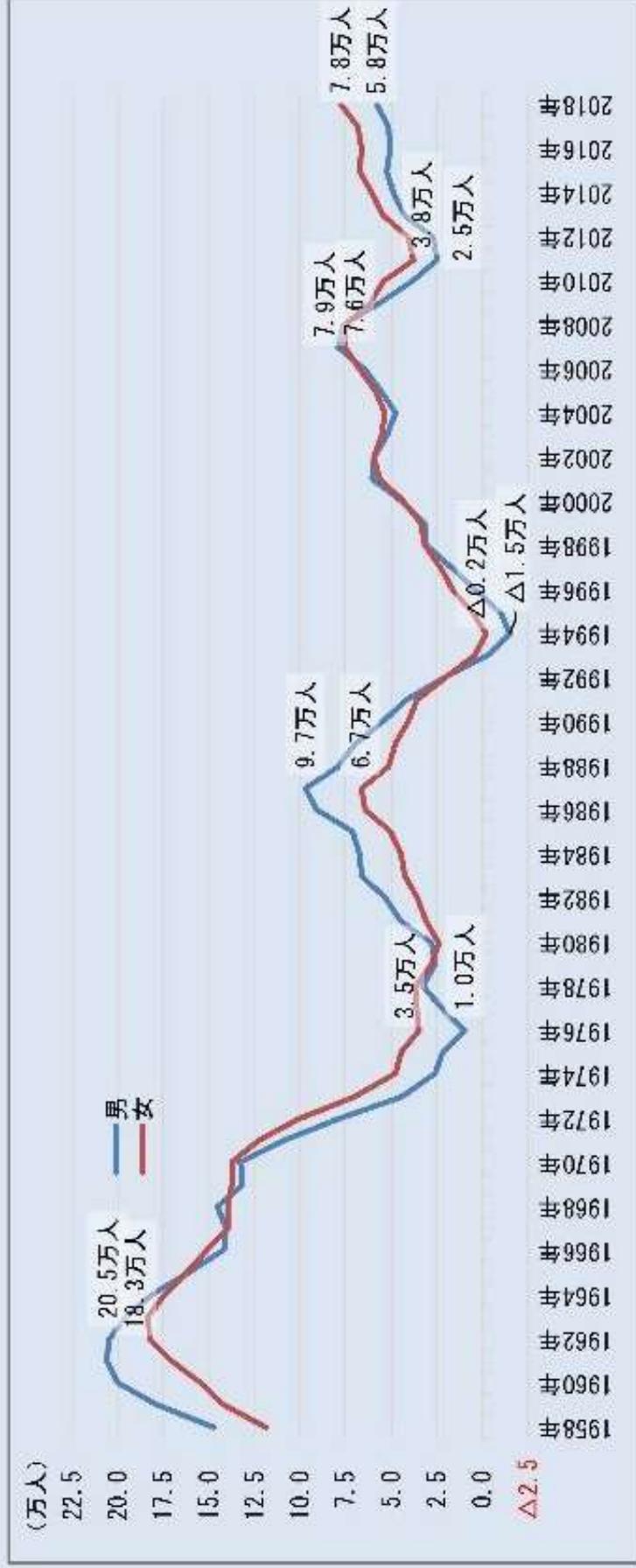


資料：「学校基本調査」（文部科学省）
 （注）大学、短期大学の計（令和元年度入学者ベース）

《参考》 全国の状況

- 東京圏への転入超過数は2011年(平成23年)以降再び拡大傾向にある。
- 近年は東京圏への女性の転入超過数が男性を上回る傾向にある。

東京圏への男女別転入超過数の推移



(出典) 総務省「住民基本台帳人口移動報告 (日本人移動者)」

《参考》 島根県の若年層産業構造

- 島根県の女性の若年層産業構造では、全国と比較すると医療・福祉の割合が高い。

島根県 男女別15～24歳就業人口・構成比

	男					女				
	15～19歳	20～24歳	15～24歳計	割合	全国との差	15～19歳	20～24歳	15～24歳計	割合	全国との差
A 農業, 林業	55	230	285	2.6%	+1.4%	8	97	105	1.0%	+0.5%
B 漁業	26	84	110	1.0%	+0.8%	-	3	3	0.0%	+0.0%
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	2	1	3	0.0%	▲0.0%	-	2	2	0.0%	+0.0%
D 建設業	305	977	1,282	11.8%	+3.1%	19	105	124	1.2%	+0.1%
E 製造業	443	1,986	2,429	22.3%	+2.6%	228	988	1,216	11.9%	+2.6%
F 電気・ガス・熱供給・水道業	20	183	203	1.9%	+1.2%	2	19	21	0.2%	+0.1%
G 情報通信業	5	124	129	1.2%	▲1.4%	7	89	96	0.9%	▲0.9%
H 運輸業, 郵便業	52	285	337	3.1%	▲1.1%	13	77	90	0.9%	▲0.8%
I 卸売業, 小売業	336	1,308	1,644	15.1%	▲1.7%	367	1,480	1,847	18.1%	▲3.3%
J 金融業, 保険業	2	112	114	1.0%	▲0.2%	20	251	271	2.6%	+0.1%
K 不動産業, 物品賃貸業	5	75	80	0.7%	▲0.4%	7	67	74	0.7%	▲0.4%
L 学術研究, 専門・技術サービス業	29	157	186	1.7%	+0.1%	10	146	156	1.5%	▲0.2%
M 宿泊業, 飲食サービス業	316	754	1,070	9.8%	▲1.8%	447	949	1,396	13.6%	▲2.0%
N 生活関連サービス業, 娯楽業	40	243	283	2.6%	▲1.0%	53	449	502	4.9%	▲1.4%
O 教育, 学習支援業	50	323	373	3.4%	▲0.6%	25	447	472	4.6%	▲1.1%
P 医療, 福祉	53	706	759	7.0%	+2.4%	112	2,717	2,829	27.7%	+9.3%
Q 複合サービス事業	12	113	125	1.1%	+0.5%	23	113	136	1.3%	+0.6%
R サービス業（他に分類されないもの）	87	459	546	5.0%	+0.6%	58	273	331	3.2%	+0.5%
S 公務（他に分類されるものを除く）	46	475	521	4.8%	▲0.1%	14	221	235	2.3%	+0.5%
T 分類不能の産業	97	295	392	3.6%	▲4.2%	95	229	324	3.2%	▲4.2%
	1,981	8,890	10,871	100.0%		1,508	8,722	10,230	100.0%	

出典：平成27年国勢調査を元に島根県政策企画監室作成

《参考》若者の県内就職を促進するための主な取組

○令和2年度当初予算〈新規・拡充〉

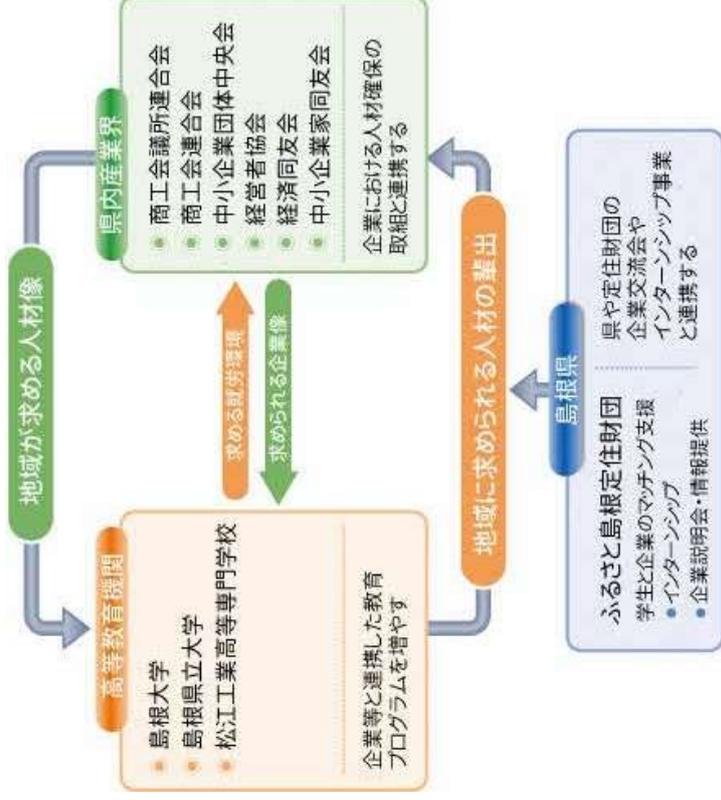
- 県内大学と企業、県等がコンソーシアムを設立し、連携体制を強化することにより、県内学生の県内就職に向けた取組を支援
県内大学と企業が連携して教育プログラムを構築する取組を支援
- 県外大学と連携した低学年向け企業交流会等を実施する学生就職アドバイザーを2名配置
- 県内企業が行う面接会等に参加する際の交通費を片道1万円以上から3,000円以上に緩和補助の対象に低学年時の企業見学等を追加
- 大学生等の卒業後におけるUIターン就職を支援するため、県外在住の女子大学生と県内企業を結びつける就職フェア等を実施
- 学生等が行った取材をもとに県内企業の魅力を紹介する動画を作成し、県内外の学生・保護者等に情報発信

○令和2年度9月補正予算案〈新規〉

- 「しまね学生登録」の登録者に対し、アプリを活用して就職情報等を届けるため、必要な情報システムを構築
- 文系女子学生とIT企業とのマッチング支援：県内IT企業の女子社員が就職イベントやオンライン企業ツアーで仕事の魅力を紹介
- 女子学生が求める企業情報の提供：就職活動中の若者を惹きつける情報発信の改善に取り組む企業のモデル的な取組を支援

《参考》若者の県内就職を促進するための主な取組

- 「しまね産学官人材育成コンソーシアム」を設立
地域の自立的な取組として、若者の人材育成と県内定着を目指す



協定締結式、運営協議会（令和2年3月26日）



《参考》若者の県内就職を促進するための主な取組

NHK NEWS WEB



女性が働く企業を女子学生が取材

島根県は、女性の県内での就職を増やそうと、女性が働く企業の現場を女子学生に取材してもらう取り組みを始めました。

島根県では毎年、進学や就職で県外に出る若者が多く、女性の県内企業への就職が課題の1つとなっています。こうした中、島根県は、県内企業で働く魅力を知ってもらおうと、女性が働く企業の現場を女子学生に取材してもらう取り組みを始め、11日は、島根大学と島根県立大学の学生3人が松江市玉湯町のホテルを訪れました。

3人は、広報を担当している女性社員に、入社を決めた理由や仕事の内容などについて質問し、女性社員は、「女性の意見が通りやすく、ホテルのレディースプランを作った女性社員もいます」などと、女性が活躍している現状を説明していました。

このあと、学生たちは客室で正座をしたまま、お辞儀をする方法や宿泊客へのあいさつの仕方などを接客担当の女性社員から教わり、実際の仕事も体験していました。

学生たちは、「島根県で女性が活躍している仕事があり知りたかったです」とか、「女性でもこんなに活躍できる場所があると知り、学生に伝えたいです」などと話していました。

学生たちは、今後も県内15の企業を取材し、取材した内容は動画や情報誌にまとめ、発信していく予定だということです。

<https://www3.nhk.or.jp/news/matsue/20200911/4030006445.html> (2020/09/11/ 18:02 NHK 島根 NEWS WEB)